

平成24年度学校評価について

学校だより4月号でお知らせしている今年度の重点的に実施した教育活動について、児童・生徒、保護者および教職員を対象にアンケート調査を行いました。その結果を報告いたします。

- 1 実施方法 マークシートによるアンケート調査
- 2 実施時期 平成24年12月
- 3 調査人数 第3学年以上の児童・生徒493人、全校保護者621人(児童・生徒数)
- 4 回収率 児童・生徒460人(93%) 保護者449人(72%) 教職員31人(85%)
- 5 調査の概要および結果

質問の骨子は、平成24年4月の学校だよりでお知らせした学校経営の重点に沿った内容です。

- ・ 児童・生徒については発達段階を考慮し、全体の質問項目を19問にしました。
- ・ 保護者と教職員については、質問項目を25問としました。
- ・ アンケートは

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 そう思う 2 だいたい思う 3 あまり思わない 4 全く思わない 5 わからない の5肢選択で回答を求めました。グラフでは、

5

 を除いて表示した個所もあります。
- ・ 質問の①は児童・生徒、②は保護者、③は教職員が対象です。②と③が同じ場合は省略しました。

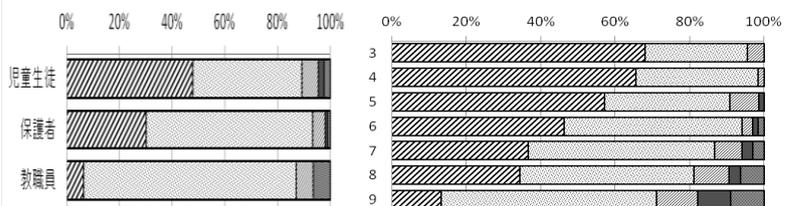
重点1 指導法の工夫・改善、児童・生徒の能力の伸張

例えば、今年度は理科の講師が配置され、5年と6年で理科の全ての授業がチームティーチングで行えるようになります。実験などもより一層効率的に行えるようになります。算数・数学、英語等の少人数編成の授業の充実や放課後の学力向上支援講師・学習ボランティアの皆さんによる補充学習もグレードアップします。全ての教師が授業改善に最大限の努力をはらって参ります

そう思う
 だいたい思う
 あまり思わない
 全く思わない
 分からない

問1

- ① 学校に楽しく通っていますか。
- ② お子様は学校に楽しく通っていると思いますか。
- ③ 児童・生徒は学校に楽しく通っていますか。



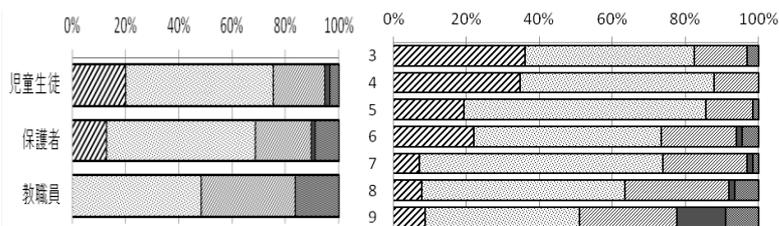
[児童・生徒、保護者、教員の比較]

[児童・生徒学年別結果]

問1では全体としては9割近くの児童・生徒が肯定的な回答をしています。学年が上がるほどに否定的な回答も増えていますが、第6学年と第7学年の間の変化は連続的になっています。すべての児童・生徒が自己肯定感をもって、楽しい学校生活に取り組めるよう教職員一同さらに指導の充実を図って参ります。

問2

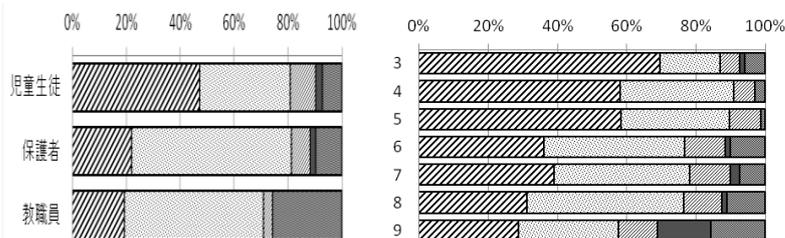
- ① 授業はよく分かり、自分からすすんで参加していると思いますか。
- ② 子供たちは、授業がよく分かり、自分から進んで学習に参加していると思いますか。



問2では、学年が上がるにつれて内容が難しくなり、二極化する傾向があります。「学習が難しい」と答え始める第Ⅱ期の第5・6学年で基礎・基本を定着させる必要があります。第Ⅱ期から始める学級担任による一部教科担任制や算数における少人数指導などを通して学力の向上を進めていきます。現在、第5・6学年から放課後学力補充教室を行っています。参加児童・生徒が学習に前向きに取り組む姿勢も報告されています。

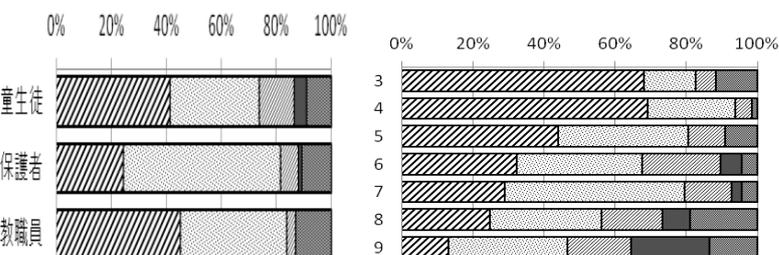
問6

- ① 算数や数学、英語で行っている少人数の学習は、役に立っていると思いますか。
- ② 算数・数学、英語で行っている少人数の指導は子供たちの学習に成果があると思いますか。



問7

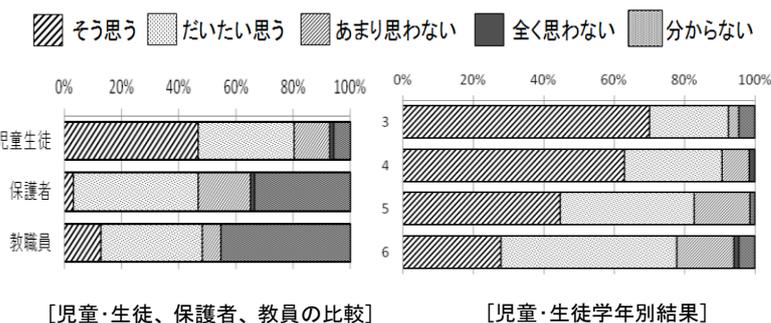
- ① 補助の先生が授業に参加していることは、あなたの勉強に役立っていますか。
- ② 学力向上支援講師や学校生活支援員が授業に参加していることは、子供たちの学習に役立っていると思いますか。



問6、問7では、児童・生徒の肯定的な回答の割合が保護者の割合よりも高くなっています。学校公開や学校だより等で少人数指導や学力向上支援講師と学校生活支援員の役割を紹介して参ります。

問15

- ① 3～6年生のみ。あなたは英語活動や外国語活動に進んで取り組んでいると思いますか。
- ② 3～6年生は英語学習や外国語活動に進んで取り組んでいると思いますか。

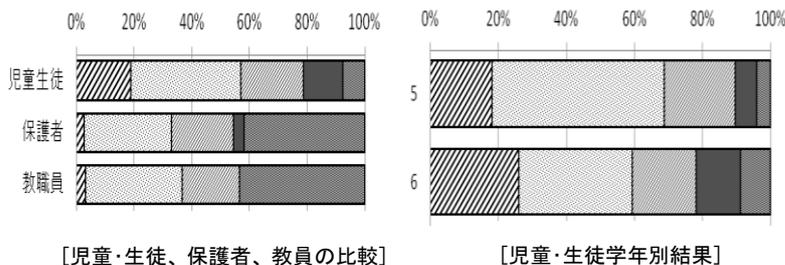


外国語活動指導員やALTにより英語活動や外国語活動の人気は高くなっています。保護者から「英語の授業はとても楽しみにしています。」というようなご意見も届いています。高学年になると恥ずかしい気持ちが強くなって、みんなの前で発言することをためらう傾向が見られるため、肯定的な意見が減少しているとの報告も受けています。

8割を超える児童が肯定的に回答しているのに対して、保護者の「わからない」という回答が4割近くありました。学校だよりや学校公開等の機会に保護者にも情報発信し、ご理解を得たいと考えております。

問 16

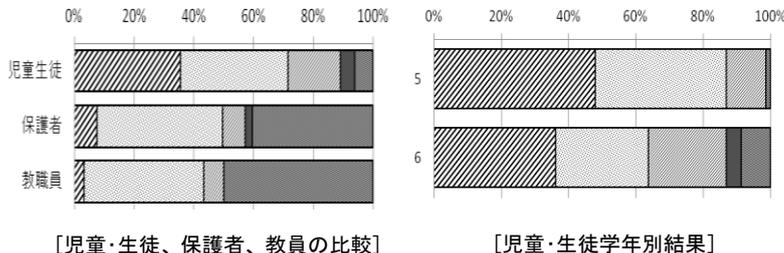
- ① 5, 6年生のみ。50分授業は学習するのにちょうどよい長さだと思いますか。
- ② 5・6年生で行っている50分授業は子供たちの学力向上やゆとりある学習につながっていると思いますか。



第5・6学年は第7～9学年に合わせて50分授業を行い、ゆとりある学習を展開できました。第5学年は70%、第6学年は60%の児童が「そう思う」「だいたい思う」を選んでいます。保護者から「第5・6学年に中休みは必要だと思う。」とのご意見をいただきました。生活時程全体を考えると難しい面もありますが、始業前の開放や放課後の東校庭の活用を工夫して参ります。

問 17

- ① 5, 6年生のみ。理科と社会などで先生が変わる学習は良い方法だと思いますか。
- ② 一部教科担任制は子供たちの学習理解や生活指導に役立っていると思いますか。



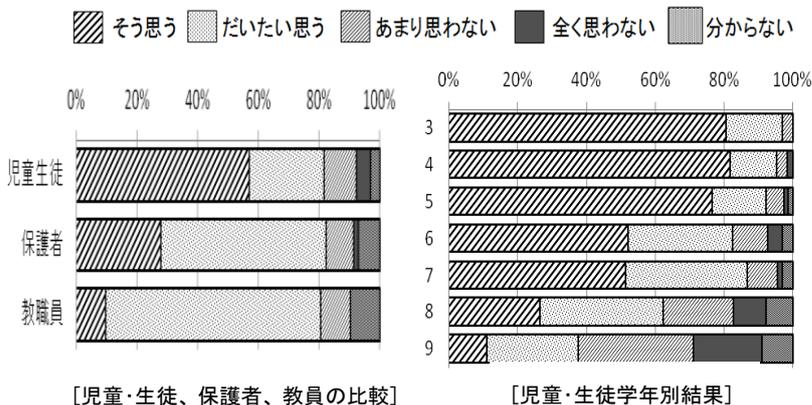
第5学年は理科、社会、外国語活動で、第6学年は理科と社会で学級担任が教科担任制を実施しました。児童は7割以上が肯定的に答えています。

重点2 異年齢集団の交流と学び合い

例えば、ランチルームを活用し学年の異なる児童・生徒同士で給食を一緒に食べる機会を増やしました。そのことで温かな人間関係を広げることができるようになりました。この他にも、児童・生徒会活動・たてわり班遠足・飯盒炊爨・部活動などで、異年齢集団の交流と学び合いを充実させていきます。

問 3

- ① 飯盒炊さんやたてわり遠足などは、これからも続けたいと思いますか。
- ② 学校は第1～4学年のたてわり遠足、第5学年以上の飯盒炊さんを通して異学年の交流を推進しています。このことは、子供たちの生活に良い影響がありますか。



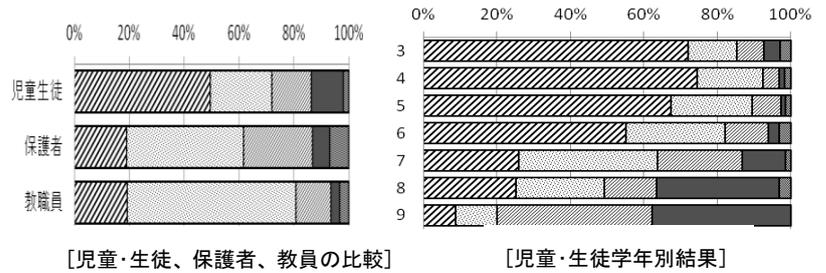
保護者のご意見として「4年生が東校舎の最高学年として責任を任されていることに満足しています。西校舎でこの経験を生かしてほしいと思います。」がありました。反面、「委員会や学校行事など6年生が先頭になって引っ張っていくことがなくなって残念に思う。」というご意見もいただいております。

第I期の最高学年としての第4学年の成長は小中一貫教育の成果です。第II期となった第5～7学年は学校の要として、今まで第8～9学年が行ってきた役割を任せていきます。その一つとして飯盒炊爨は第5～7学年で実施することとし、第7学年のリーダーシップを育てようと計画しています

第III期（第8～9学年）は義務教育の最高学年として、新たな課題を追究する計画を策定中です。

問 4

- ① 運動会を全校で一緒にすることは、来年も続けたいと思いますか。
- ② 運動会や桜祭(音楽会)などの学校行事は小中一貫教育校のよさを発揮できていると思いますか。

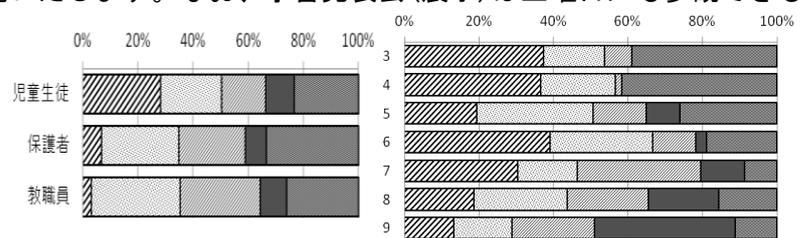


運動会では第1～6学年は学級内を紅白に分け、第7～9学年は学級単位で紅白に分かれました。第7学年以上は学級対抗リレーやムカデ競走で学級所属意識を高めました。保護者から「学年単独の種目を増やしてほしい」というご意見をいただきました。第1～9学年が参加して交流することができる小中一貫教育校としての特色を生かしつつ、異学年交流の良さを生かした競技を工夫していきたいと思ひます。

また、「休日に桜祭を実施してほしい」というご意見をいただきましたが、土日は施設借上げ料が高いなどの理由から、来年度も平日に実施いたします。なお、学習発表会(展示)は土曜日にも参観できるように立案中です。

問 11

- ① 5・6年生が部活動に入ること、部活動が活発になったと思いますか。



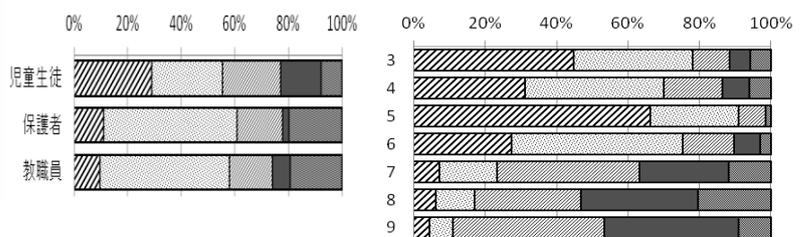
7月時点での入部率は第5学年が25%、第6学年は62%でした。児童にとっては部活動への入部の手続きは分かりにくい面もあったようです。部活動体験の機会を増やすことも考えていきたいと思ひます。

重点 3 人との関わりを重視した体験活動

例えば、5年生は学校田「大泉桜の里」で、田起こし・代掻き・田植え・除草・稲刈り・脱穀というように、小さい田んぼながらも一年を通して本物の稲作体験をします。農業指導の埼玉県川島町の農家の方々との交流も見逃せません。福祉・地域活動等の分野でもこうした体験活動を幅広く実践していきます。

問 8

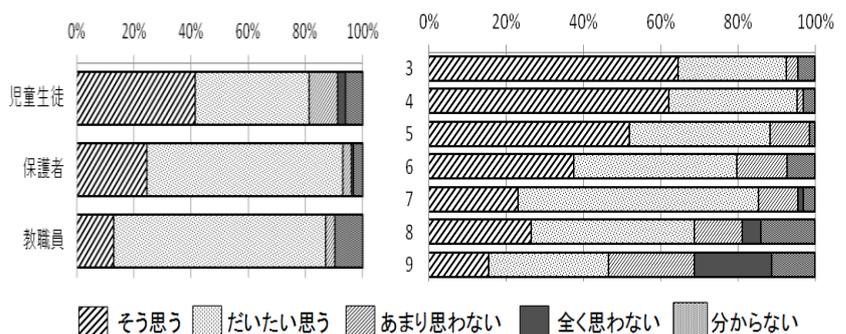
- ① 「大泉桜の里」を見て、稲が育つ様子に興味をもてましたか
- ② 「大泉桜の里」で行っている稲作は学校のシンボルとして、子供たちの学習や生活に利用され、学校の生活に根付いていると思ひますか。



第5学年が中心になって米づくりを進めました。今年は精米して10kgの収穫がありました。第5学年以外では水辺の生物観察(第1・2学年 生活科)やヤゴ救出作戦(第3学年)などでも関わってきました。第5学年での経験を次の学年に伝える異学年交流や理科、総合的な学習の時間などの時間でもかかわりを深めていきます。

問 14

- ① 特別支援学校との交流や地域めぐり、職場体験などに進んで参加していますか。
- ② 学校は職場体験や大泉特別支援学校との交流、地域めぐりなど、地域を生かした教育活動を行っていますか。



そう思う
 だいたい思う
 あまり思わない
 全く思わない
 分からない

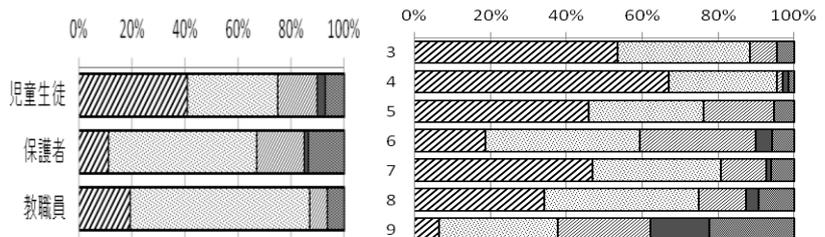
大泉特別支援学校との交流は本校の大きな特色です。交流教育は、お互いに楽しく交流することからスタートし、学年が上がるにつれて自他の共通点と相違点を知り、お互いに理解を深めることを目的としています。

重点4 9年間の系統性を充実した伝統・文化理解教育

例えば、昔遊び・百人一首・室町体験学習（生け花・茶道・墨絵）・和太鼓・民族舞踊・箏・能体験・狂言体験・伝統工芸制作を通し、その集大成として京都・奈良方面の修学旅行に出かけます。進展する国際社会であればこそ、自国の文化理解が大切です。その他の分野でも9年間の系統性をもって教育を推進してまいります。

問9

① 学校は「ことわざや熟語・いろはかるた・百人一首、昔遊びや墨絵、生け花」など伝統文化体験学習に力を入れていると思いますか。



昔遊びや百人一首は学年によって実施時期が異なるため、学年によって結果のばらつきが見られます。

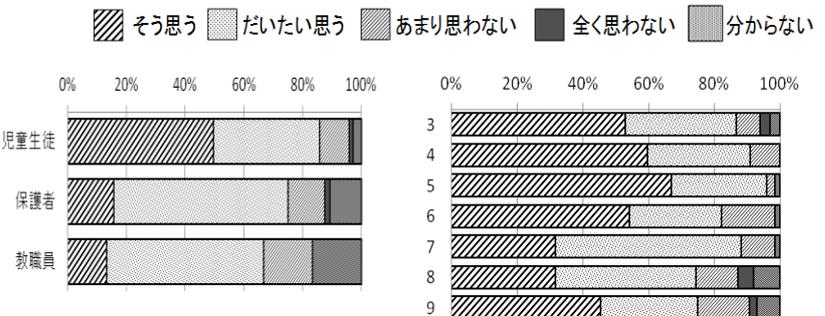
第Ⅰ期では、昔遊びや百人一首大会などの活動を通して地域の人との出会いも大切にした学習を進めます。第Ⅱ期から第Ⅲ期にかけて、生け花や茶道、墨絵などの室町文化体験学習へと発展させます。やがて和太鼓体験や箏、民族舞踊、能・狂言体験、伝統工芸制作を通し、その集大成として第9学年が京都・奈良方面の修学旅行に出かけます。

重点5 望ましい連帯感を育む児童・生徒の健全育成

例えば、本校では標準服をお示ししております。登校する服装が華美であったり遊び着であったりでは困ります。学校は学ぶ場所です。身なりや服装、言葉遣いを含めてきちんとし、学校にふさわしい礼儀や規律を理解し、環境を整え、豊かな生活を作り出します。

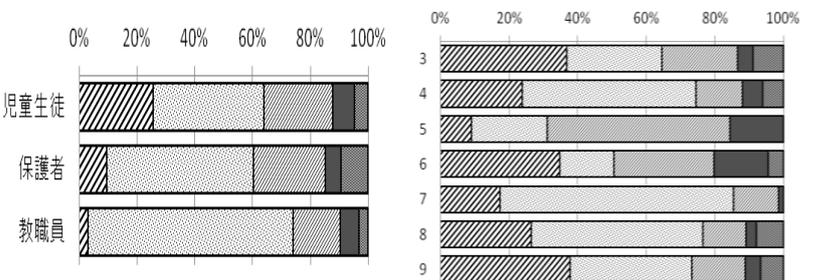
問5

① 始業式や朝礼などの行事の日には、服装に気を付けていますか。
② 学校は子供たちが入学式や始業式などのフォーマルな場面の意義を理解して参加するよう指導していると思います。



問10

① 行事の時だけでなく、普段からきちんとした服装に気を付けていますか。
② 子供たちは、場にふさわしいきちんとした服装を意識するようになりましたか。

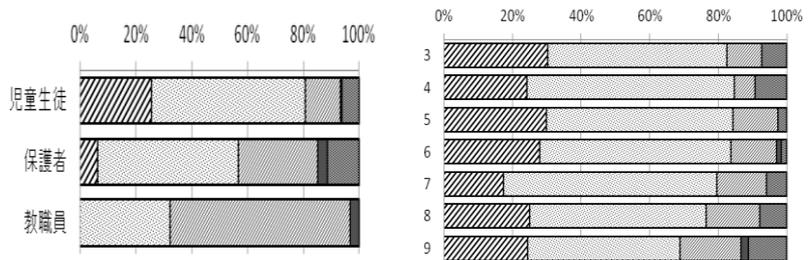


儀式的行事の際にはほぼ全員が標準服または標準服に準じた服装の着用にご協力いただきました。しかし、服装の基準が分かりにくいなどのご意見をいただいております。

標準服は大泉桜学園の特色の一つで『勉強ウェア』と考えています。標準服を通して身なりや言葉遣いを整え、お互いに節度ある態度で学校生活に臨み、礼節をもって尊敬し合える仲間をつくることを目指しております。標準服に愛着をもっていただくと同時に着用率を高めることを目指しています。ご理解とご協力をお願いいたします。

問 12

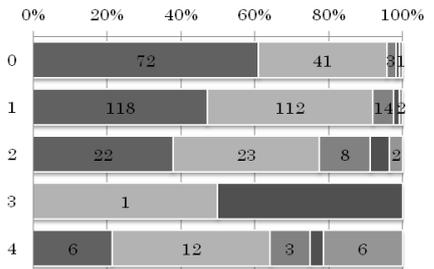
- ① あなたはその場に応じたあいさつや礼儀作法ができていると思いますか。
- ② 子供たちはその場に応じたあいさつや礼儀作法ができていると思いますか。



小中一貫教育校となって児童・生徒会活動を中心に挨拶運動を進めてきました。火曜日から木曜日までは児童・生徒会役員や生活委員が朝の挨拶運動を行っています。子供たちは挨拶を返しますが、自分から先に挨拶することはもう一歩です。

左図は縦軸に「あいさつができるか」を設定しています。横軸に「学校生活が楽しいか」を設定して比較しています。(0:挨拶できる 1:だいたいできる 2:あまりできない 3:できない 4:わからない)

横軸の数字は人数で、左から「学校生活が楽しい、だいたい楽しい、あまり楽しくない、楽しくない、わからない」となっています。挨拶ができると答えている児童・生徒ほど楽しく学校に通っていると言えそうです。



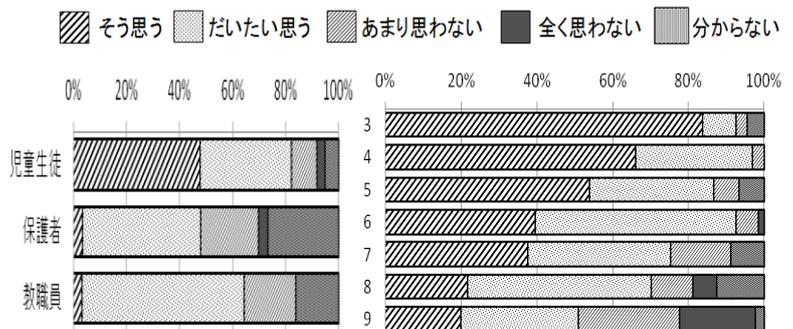
保護者の方からは「地区班の集合場所で挨拶が少ない。上級生の姿を見てようになってしまいました。」というご意見をいただきました。集合場所でも挨拶ができるように保護者の皆様の声掛けをよろしくお願いいたします。

重点 6 勤労観・職業観の育成と自己の生き方

例えば、昨年8年生の職場体験に際し6年生が取材活動をしました。7年生の職業調べの発表を5年生が真剣に聞きました。キャリア教育の視点から9年間を見通した指導の展開を研究して参ります。また、命の教育の視点から働くことについて低学年から学んでまいります。

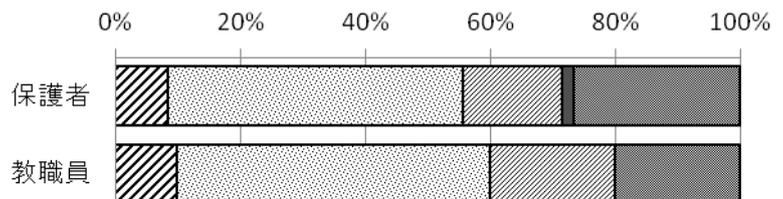
問 13

- ① 学校で学んだことは、将来や生き方を考える役に立っていると思いますか。
- ② 学校は教科や総合的な学習の時間・道徳などの教育活動を通して、子供が自らの将来や生き方を考える教育を実践していると思いますか。



問 22

- ③ 本校が重点を置いている「命の教育」は、教科や道徳・総合的な学習の時間等で児童・生徒への指導がなされていると思いますか。



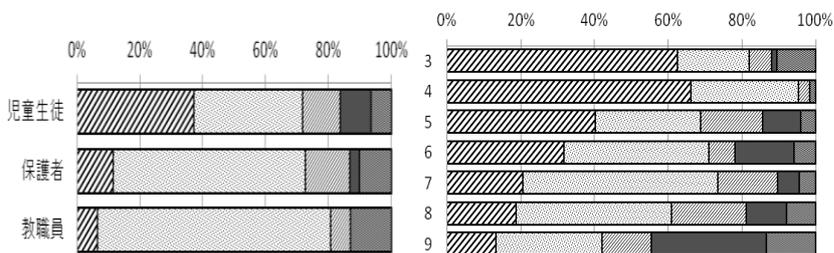
道徳授業地区公開講座では「命」をテーマに全学年で道徳授業の公開を行いました。校内研究でも道徳について授業研究を行っています。来年度も「命の教育」を進めてまいります。

その他

学校経営の6つの重点に関連して取り組んできた項目についてまとめました。

問 18

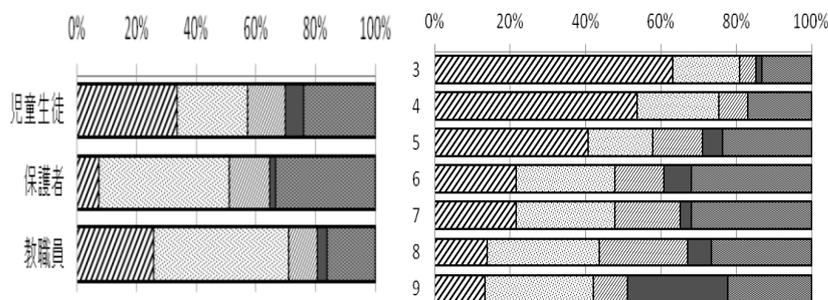
- ① 先生は丁寧な言葉遣いや場に応じた服装に気を付けていると思いますか。
- ② 教職員は言葉遣いや場に応じた服装に気を付けていると思いますか。



言葉遣いや服装についての課題を指摘されています。児童・生徒一人一人の大切さを強く自覚し、自らの言動が児童・生徒の人権を侵害することのないように引き続き意識して指導してまいります。

問 19

- ① 担任の先生や相談室の先生は、悩みの相談を熱心に聞いてくれると思いますか。
- ② 学校は、よりよい人間関係づくりに向けて、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員などと連携して適切に指導していると思いますか。

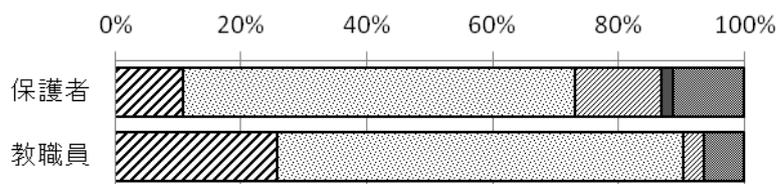


児童・生徒と保護者ともに「5わからない」が4割近くありました。本校には心のふれあい相談員2人、スクールカウンセラー1人配置されています。教育相談は東校舎1階の「心あったまルーム」と西校舎3階の教育相談室で行っています。電話による予約も受け付けています。

直通電話090-6930-4860 お問い合わせ先 副校長 蛭田江麻 03-3924-1126

問 20

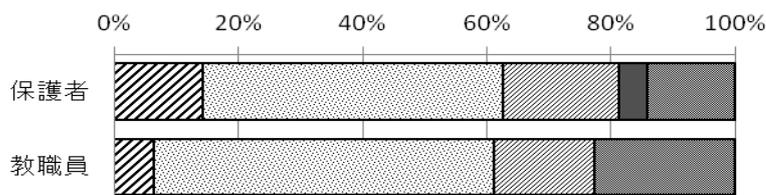
- ② 学校の活動の様子が手紙やホームページ、校内掲示等によってよく分かりましたか。



保護者から「学年だより、ホームページが家庭での話題づくりに役立っています。」というご意見を戴きました。ホームページの「学校日記」では毎日の学校の様子を紹介しています。今後も大きな行事だけでなく、日常の学習や生活から取材して紹介するとともにより見やすく分かりやすいホームページ作りを進めて参ります。

問 21

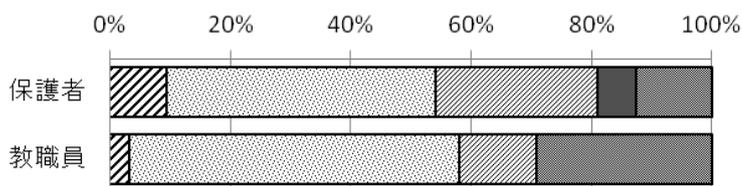
- ② 学校は小中一貫教育校としての特色や効果が分るように努めていますか。



平成25年2月8日（金）には平成23・24年度練馬区教育委員会教育課題研究指定校としての研究発表会を行うことができました。保護者の皆様にはご多用のところ、受付や案内などたくさんの方々にご協力いただき誠にありがとうございました。おかげさまで北海道から長崎まで保護者も含めると400名以上の方々にご参加いただきました。今後とも練馬区初の小中一貫教育校として研究を進めるとともに、学校の特色や効果が分かるようにお知らせすることも工夫してまいります。

問 23

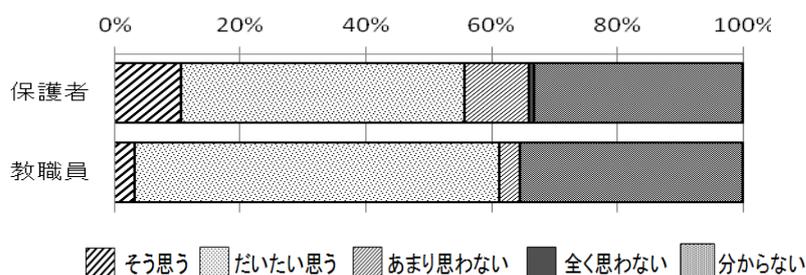
② 登校班や地区班が組織されて、集団の登下校等、児童・生徒の安全に有効に機能していると思いますか。



保護者のご意見に「登校班が実施される期間が短い気がします。低学年のために4月から6月くらいまで実施していただきたい。」がありました。登校班の在り方については保護者の組織とも相談し対応を決めて参ります。

問 24

② 学校は学校応援団・青少年育成北地区委員会・青少年委員会等との連携を強化して健全育成に努めていますか。



学校応援団には「さくらっこ広場」運営を通して放課後の子供の居場所づくり等にご協力いただきました。また、青少年育成大泉北地区委員会の事業では本校で行われた文化集會に吹奏楽部が参加しました。青少年委員会主催で12月に本校で行われた球技大会にもサッカーや少女バレーが参加しました。3月には大泉中学校で行われる大泉少年少女音楽祭に吹奏楽部が出演する予定です。

また、「自転車置き場が西側の奥で東校舎に行くには不便を感じています。」とのご意見をいただきました。しかし、東校舎の安全管理上、東門は閉鎖しております。ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

学校関係者評価委員会より

- ・ 正門付近に一貫教育校としての宣伝があるとよい。
- ・ 学校の外から見たときに、学校の様子がわかる工夫があるとよい。
- ・ 4年生は生き生きと活動している様子がわが子を見てよく分かります。

※ 学校関係者評価委員会は学校評議員からなる委員会です。桜連絡会、学校応援団、大泉特別支援学校、町会、大泉学園町商店会等の皆様にご協力をいただいております。

保護者の皆様、学校関係者評価委員会から頂戴したご意見を参考にして、来年度の学校経営に活かして参ります。ご協力をありがとうございました。